全国の火山活動状況（1981年1～3月）

気象庁地震課火山室

気象庁が常時観測を実施している精密観測4火山については，1981年1月以降3月末までの活動状況を，普通観測13火山とその他の火山については，報告をうけたものについて状況を要約した。火山情報発表状況を第1表に，全国火山活動状況を第2表に示す。

第1表　火山情報発表状況
（1981年1～3月）

情報＼火山名	桜島	阿蘇山	浅間山	伊豆大島	樽前山	三宅島
定期	3	3	3	3		1
臨時	3				1	
火山活動						

第2表　全国火山活動概況（1981年）

火山＼月	1	2	3
桜島	▲	▲	▲
浅間山			△
樽前山	△	△	
有珠山	△	△	△
霧島山	△	△	
諏訪之瀬島	▲	▲	
福徳岡の場	△	△	△
福神海山	△		

▲ 噴火　　△ 火山性異常現象

桜　島

爆発回数，噴煙回数，地震回数の月ごとの推移は第３表のとおり。１月は爆発音，空振，噴石等の表面活動の活発な爆発が比較的多かった。

第３表　桜島火山観測資料

月	1981／1	2	3
爆発回数	18	5	11
噴煙回数	11	3	7
地震回数	1811	1397	1210

おもな活動

・１月２０日１６時３２分の爆発はやや多量の噴煙を２１００mの高さまで噴き上げ，大きな爆発音と空振を伴って多量の噴石を４合目まで飛ばした。この噴石で南岳南西麓の馬の目火口（文明火口）近くの松林で約５分間，白煙を上げる山火事が発生した。また南岳南東麓の有村墓地近く（南岳火口から約2.5 Km）に落下した噴石で，径1.3m，深さ０．５mの穴ができ，飛散した噴石破片により約５０m^2（幅５m，長さ１０m）の原野が焼失した。

・３月２０日５時２１分 の爆発は，爆発音と空振を伴い，中量の噴石を６合目付近まで飛ばし，火柱が火口上１００mの高さに上がった。

火口状況

海上自衛隊の協力で１９８１年１月３０日に撮影された南岳火口写真によれば，1979年7月30日に撮影されたときにみられたＡ火口底の火口丘はなくなり，１９７６年５月１７日に撮影されたときの火口状況とほぼ同様の形状でやや深くなっている。

Ａ火口とＢ火口の境目の稜線は中央部から北側が削り取られて低くなっているが，Ａ火口孔の位置はほとんど変っていない。Ｂ火口は噴煙のため詳しくはわからないが，Ａ火口よりは深くなっている。　２月２７日にも撮影が実施されたが，Ａ火口内は１月３０日の状況と変りなく，火口底への溶岩の上昇は認められなかった。

阿蘇山

中岳第１火口は引き続き全面湯だまりで，湯量の増減もほとんどなく，中央部付近とやや南よりの２個所で弱い噴湯現象が繰り返されたが，３月に入り中央部のものは消滅し，南よりのものもようやく認められる程度に弱まった。南側から南西側の噴気個所にも大きな変化はなく，表面活動は穏やかな状態が続いている。

地震活動も第４表に示すように，低いレベルで推移している。

第4表　阿蘇火山観測資料

月	1981／1	2	3
地震回数	34	38	43
孤立型微動回数（0.5μ以上）	11	6	13
連続微動平均振幅（μ）	0.0～0.1	0.1	0.0～0.1

浅間山

1月12日と3月7～13日に火山性地震が増加したが，表面現象等に特に変りはなかった。しかし噴煙（白色）はやや増加し，「やや多量」の噴煙が観測された日数は，1月：4日，2月：2日，3月：2日であった。

月ごとの地震回数は第5表のとおり。

第5表　浅間火山観測資料

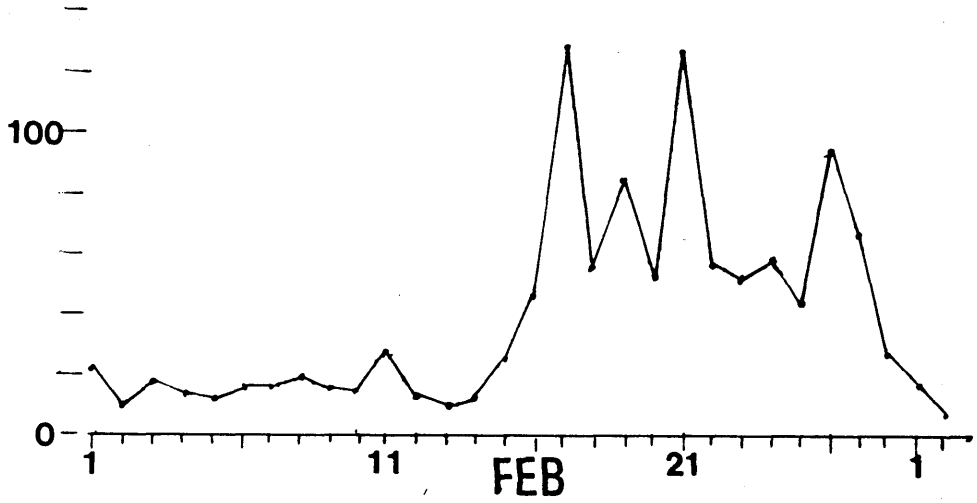
観測点＼月	1981／1	2	3
A	37	28	266
B	763	373	951
C	442	245	899

伊豆大島

2月11日に火山性地震多発，3月9日18時59分に島の北西部で人体に感ずる地震の発生があったが，そのほかは特に変りはなかった。

樽前山（苫小牧測候所　2月17日火山情報）

2月後半，火山性地震が群発したが，3月に入り減少した（第1図）。このため地震回数は1月の420回に対し，2月には1121回と急増し，1日の回数も17日129回，21日128回で，日回数，月回数とも1967年観測開始以来の最高を記録した。2月27日11時ごろ，全日空パイロットにより樽前山の山頂付近の雪面が黒ずんでいるのが認められたが，4月9日北大　勝井教授等の現地調査によると，A火口付近及びその東南東方面の火口原は，表層の厚さ0～20cmの新雪とその下70～100cmの積雪の間に，灰色の火山灰が一層だけ（厚さ1.3～0.6mm）存在しているのが認められた。



第１図　樽前火山性地震回数日別推移（１９８１）

有珠山（室蘭地方気象台　報告）

噴煙活動も特に異常は認められず，表面活動は平穏に経過した。有珠山Ａ点における地震回数の月別推移は次のとおり（かっこ内は有感相当回数）で，前回（１９８０年１０～１２月）より一段と回数を減じた。

月	1981／1	2	3
地震回数	357（63）	289（49）	235（41）

御岳山（気象庁　観測）

３月１１日，陸上自衛隊東部方面総監部航空機により，御岳山の火口撮影が実施されたが，火口状況次のとおり。

第１，３火口と第９火口側壁の噴煙は前回（１９８０，１１，１４）と比べ変りなく，勢いよく白煙を上げていた。第７火口は前回は低調であったが，今回は勢いを盛り返し白煙を上げていた。第１０火口は前回は噴煙が比較的多かったが，今回は噴煙は少なくなっていた。全般に噴煙は特に減少したとは認められず，細々ながら継続している。

王滝頂上付近９合目における地震回数（0.2 μ以上）は次のとおり。

月	火口付近	山麓群発	計
1	5	4	9
2	1	9	10
3	3	8	11

三宅島（三宅島測候所　3月4日火山情報）

3月3日，雄山の現地観測を実施したが，噴気地帯の噴気量は前回と比較してほとんど変化なく，噴気温度や地中温度は全般に低目で，特に異常は認められなかった。

火山性地震は12月5回，1月3回，2月6回で三宅島近海の地震も含まれている。

3月17日15時～18時34分に21回（P－S 5.7～6.0 ^{S}，うち最大振幅 5.6 μ）の地震を観測したが，震源は神津島付近と推定された（東海テレメーターによる）。

霧島山（鹿児島地方気象台　報告）

1980年12月20日ごろから硫黄谷温泉にある営林署保養所裏の噴気地帯が拡大移動し，新しい噴気孔を生じた。泥泉（温度96～98℃）のわき出しで，ひとかかえもある樹木が倒れた。また平坦地の一部が陥没し，径3 mほどの池ができた。この噴気地帯は1959年の新燃岳の噴火時にも新しい噴気孔が生じるなどの変化があった。

1981年1月31日，硫黄谷温泉の噴気は道路西側から東側に広がり，道路東側の公共駐車場（1963年ごろ湿地帯であった所に3本の暗きょを入れてつくった）の一部が陥没し，盛んに噴気が出ており，この暗きょからかなり多量の湯（温度70℃）が流れ出ていた。このような道路の反対側からの噴気は，初めてのことである。

2月16日，駐車場付近の噴気は更に移動し，駐車場の北側で松の木が倒れ，竹が枯れた。道路にあった噴気も道路の中央部まで広がった。

諏訪之瀬島（諏訪之瀬島分校　報告）

1981年1月　噴火（29，30，31日）
　　2月　噴火（12，20日）
　　3月　噴火（26，27日）

海底火山（海上保安庁水路部　報告）

福徳岡の場

変色水視認（1月9，29日，2月12日，3月12日）

福神海山

変色水視認（1月7，8日）